

平成27年度 教育指導部 方針書

教育指導部長 _____ 石川 淳

1. 部の使命（役割）

「夢」を大きくもちながら、「笑顔」を輝かせて、「郷土」を支えていこうとする子どもを育てる教育活動の実現を図る。

2. 平成27年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・地域局や関係部局と連携した取組の推進
- ・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を確実に育てる取組の拡充
- ・子どもが安心して楽しく学べる教育環境の充実
- ・食育のさらなる充実と安全でおいしい学校給食の提供

3. 平成27年度の『スローガン』

夢工房 ～輝くあなたの未来を、ともに、創造します～

4. 年度目標となる方針（目標）

～地域局や関係部局との連携推進を基盤として～

- ・「生きる力」を育む教育活動の拡充と教職員の資質・能力の向上
- ・子どもに安全安心な学校生活を保障する教育環境の充実
- ・子どもの心身の健やかな成長を図る「食」の指導の充実と安全安心な学校給食の提供

5. 重点取組項目

(1)	項目	学校訪問や研修活動の充実による教育活動の一層の向上
	取組内容	・「言語活動の充実による確かな学力の育成」を目指す教育活動への指導・支援の拡充 ・幼児期から成人期に至る一貫した指導・支援の確立を図る特別支援活動の充実 ・子どもの心身の健全な育成を図る生徒指導、キャリア教育、防災教育、食育等の推進
(2)	項目	子どもが安心して楽しく学べる教育環境づくりの推進
	取組内容	・点検と改善による通学路整備とスクールバスの安全で適正な運行管理 ・小児生活習慣病の予防や改善に向けた取組の具体化 ・幼保小連携を推進する体制づくりと健康福祉部との連携
(3)	項目	安全で安心な、子どもが親しむ学校給食の提供
	取組内容	・子どもの心身を健やかに育てる安全で安心できる学校給食提供の徹底 ・学校給食における子どもの食物アレルギーへの適切な対応 ・保護者が共感する食材の選定と(4センター統一献立の拡充等の)献立の工夫

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

(1)市内各小中学校への複数回の訪問を通して、本市教育の重点である「読書・NIE」への取り組みと授業改善について指導支援を継続している。児童生徒に「ことばの力」をつけること、言語活動の充実による授業改善等が各校において積極的に進められている。幼保小中の接続を意識した特別支援教育も指導主事を中心に丁寧な実態把握がなされ、成果をあげつつある。

(2)県の事業を活用した通学路の安全点検や安全指導を全小学校を対象に行っている。大きな事故の無いことが最大の成果である。幼保小連携、小学校への円滑な接続を課題として取り組んでいる「子ども未来係」は、現場からのアンケートを元に課題を明らかにし、後期並びに次年度に向けての事業計画のアウトラインができあがった。小児生活習慣病予防対策も各校において適切に進められている。

(3)安全で安心な給食提供が継続して行われている。異物混入・感染症等、重大事案も発生していない。食育に関しては、農林部と共催で「ごっつお給食レシピコンクール」を実施するなど、具体的な成果があった。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

(1)後期は、それぞれの学校で前期の振り返り、新たな課題・年間を通しての課題解決に向けて取り組む段階に入る。また、様々な機会に学校経営を評価し、課題を明らかにした上で、次年度の取り組みの方向性を決める。授業改善はもちろんだが、現代的な教育課題へ対応するための話し合いも重要になってくる。特に、いじめや不登校、情報モラルに関する指導計画の立案、更には、幼保小の円滑な接続に関しての取り組みは重要である。学校間に若干の温度差がある。継続した指導・助言が必要である。

- ・スクールバスの安全運行、学校給食の安全な提供に関しては、「事故0」を目指さなければならない。文書による啓蒙や講習会の開催、センターへの定期的な訪問指導などは確実にやりたい。また、食育に関しては、プランを実行する段階に入る。「ごっつお給食・バイキング給食」などの実施を通して、「部局横断」の視点からの食と農からのまちづくりへも貢献していきたいと考えている。
- ・子ども未来係の取り組みの全体像はできあがりつつある。それを各小中学校にどのように周知し、次年度以降の本格実施に向かうかが大きな課題である。校長会・教頭会等の機会を活用して理解を図ると共に、市教育推進委員会での「幼小連携部会設置」も確実に進めよう取り組む。また、児童生徒の健康面で、健康福祉部との連携が今一步の感がある。後半の課題である。
- ・通学路の安全点検等を受けて、県及び他部局とも連携を図りながら、その改善にも努力しなければならない。目標は75%以上である。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

(1)積極的な学校図書館の利活用、新聞を活用したNIEの実践が進んだ。まだ学校間で違いは見られるが、すべての小中学校で前向きに取り組んでいることが大きな成果である。山内小中学校での次年度の公開に向けた準備も進んだ。様々な教科で新聞を活用するなど意気込みが感じられた。平成28年度は、全国から先生方を迎えての学力向上フォーラムが市内を会場に行われる。中心は「言語活動の充実、読書・NIE」となるだろう。そのための指導助言、リーダーシップを教育指導課は果たしていかなければならない。

また、特別支援教育に関しては、就学指導が充実した。フットワーク軽く幼保小との連携を行ったこと、子ども未来係との連携も大きい。また、特支スタートカリキュラムとも言える、年度初めに向けた準備もできたことは、担当指導主事の力も大きい。次年度は、いよいよ実践である。

(2)大きな事故や怪我がなく何よりだった。国交省、県、警察、建設部、PTA、学校等との強力な連携のもと、通学路の危険箇所の洗い出しは相当進んだ。整備はまだまだだが、全市的に、かなり詳細にわたって実態把握ができたことが最大の成果である。具体的な対策、処置はまだ半分程度だが、次年度にかけて整備をしていきたい。また、幼保小連携に重点をおいた子ども未来係も活動が充実した。学校教育指導員の活用で、保育所・幼稚園訪問やアンケート、研修会の実施など大きな成果を上げた1年だった。就学指導に大きく貢献した。小児生活習慣病予防に関しては、医師会の協力も得ながら新たな取組の方向性が示された。様々な関係者からの意見はやはり貴重である。次年度も同様の取組を充実させたい。

(3)アレルギーに係わる事案、ノロウイルス対策、秋田版ハサップの実践など、学校給食課としても成果を上げた後半だった。日常的な安全点検を注意深く行ってきたが平鹿給食センターのボイラー故障は想定外だった。しかしながら、危機的な状況ではあったが、職員の努力と連携で、給食を止めることなく提供できたことは課の成果である。課題を明らかにして、これからも安全な給食の提供を心がけていく必要がある。食育の面では、他部局との連携ができた。農林部への協力、議会との連携など成果があった。今後も具体的な取組を中心に、実践を広げていく必要があると感じている。地元食材も主要15品目については、40%を越える使用率だった。年々増加傾向にあり、各センターでの努力の成果が伺える。また、地元食材を活用しての献立は、コンテストを経て各校に提供され好評だった。農業祭の祭も「横手のごっつお給食」として市民に振る舞われた。あつという間の完売の様子からも、関心の高さが伺えた。